

# 早稲田大学ラグビー蹴球部における伝統及びしきたりに対する意識調査

A study on Waseda Rugby players' attitudes toward the tradition of Waseda Rugby Club

1K08B022-8

伊藤亜紀

指導教員 主査 作野誠一 先生

副査 辻高志 先生

## 【研究目的】

本研究の目的は、早稲田大学ラグビー蹴球部の現役部員への意識調査を通じて、創部以来 90 年以上に渡って伝統やしきたりが継承され続けている理由を明らかにすることである。

## 【研究方法】

現役部員の 1 年生と 4 年生を対象に、早稲田大学ラグビー蹴球部における伝統やしきたり全 17 項目に対する意識調査をアンケート形式で行ったのちに、現役部員数人を対象として個別にインタビューを行った。

伝統やしきたりに関するアンケートでは、全部員が対象となる項目と、1 年生のみが対象となる項目に分けて調査した。また、調査項目には部の代表的な伝統のうち、「言語的シンボル」、「行動的シンボル」、「物理的シンボル」の 3 種類を均等に含むように選定した。

## 【結果】

(1) 伝統やしきたりに関するアンケート

① 全部員が対象となる伝統やしきたり

必要であるという認識を持つ部員の割合が高かった。その中でも、上級生になるにつれて伝統の必要性を強く感じる傾向にあることが分かった。

② 1 年生のみが対象となる伝統やしきたり

上級生が必要性を感じていないにもかかわらず、伝統をくずそうとはしてこなかったという例がいくつかあった。

(2) 現役部員の 4 年生 3 名に対する個別インタビュー

伝統とは必要性が良く分からなくても従うべきものであり、伝統を崩すにはリスクがある、という考えが部員に根付いていることが分かった。

特に、4 年生になってからはチームの勝ちに対する責任とこだわりを強く持つようになるため、自分の言動には慎重にならざるを得ず、わざわざ自分たちの手で伝統をなくそうという動きには達しないという回答が得られた。

また、早稲田大学校歌や早稲田大学ラグビー蹴球部第一部歌「北風」など、早稲田にしかない良

い伝統を守り、早稲田ラグビーらしさを大切にしたいという認識があることも分かった。

## 【考察】

早稲田大学ラグビー蹴球部では、本研究で取り上げたもの以外にも、本当に沢山の伝統が受け継がれてきた。90 年以上前から OB 達が築いてきた歴史の延長上に今の自分達がいる、そういう意識を持っているからこそ、必要性を強く感じていなくてもあえてそういった伝統を引き継いできたという側面があるのかもしれない。

アンケートでは、いくつかの項目を除いて、かなりの割合で、必要だと感じている伝統やしきたりがあるということが分かった。また、4 年生へのインタビューでは、早稲田にしかない良い伝統を大切にしたい、といった回答が得られたが、これこそ長年に渡って伝統が受け継がれてきた理由のひとつなのではないだろうか。こういった考えを持つ現役部員・OB がいるということは、これから先の数十年間も同じような伝統が受け継がれていくのだろう。

大学生活 4 年間の全てを捧げて、本気で赤黒を目指し、本気で荒ぶるを目指す。ほとんどの人の場合、人生で二度とないこの貴重な経験には、とてつもないエネルギーと精神力が必要となる。そんな時に、早稲田ラグビーのプライド、勝利へのこだわりを持ち続ける要因として、伝統やしきたりがあげられるのだろう。

校歌を部員全員で歌うことでチームの士気が高まるように、赤黒の 1st ジャージ、早稲田大学ラグビー蹴球部第二部歌「荒ぶる」、第一部歌「北風」などの伝統を目にし、触れるたびに、早稲田の誇り、プライド、闘争心を持ち続けることができるのだと考える。

早稲田大学ラグビー蹴球部における伝統やしきたりは、行動的シンボルにあてはまるものに関しては、勝利にこだわるがゆえにあえて変えることをしてこなかったが、言語的及び物理的シンボルにあてはまるものは、部員のモチベーションを高める最大の要素として、重要な役割を果たしていると言える。